

2026年10月28日

株式会社小田急箱根

登録有形文化財「白雲洞茶苑」 自ら抹茶を点てられるイベントを2か国語で開催！ ～静寂に包まれた歴史的な由緒あるお茶室で特別体験～

株式会社小田急箱根(本社:神奈川県小田原市 社長:水上 秀博)が運営する箱根強羅公園にある「白雲洞茶苑」では、11月11日(水)、11月13日(金)、11月17日(火)、11月18日(水)に「抹茶体験イベント」を開催します。本イベントは、日本語と英語で開催する日程を設け、お客さま自らが流儀や作法にとらわれずに抹茶を点てられ、体験中の写真撮影のサポートや、体験後には茶室内を自由に見学することができます。100年を超える由緒ある茶室の歴史や文化に触れながら、特別な抹茶体験をお楽しみください。

白雲洞茶苑は、強羅エリアを開発し実業家としても知られる益田孝(鈍翁^{どんのう})によって、多くの方に親しみやすい「田舎家の席」として1910年代に建設され、1922年には原富太郎(三溪^{さんけい})、1940年には松永安左エ門(耳庵^{じあん})に引き継がれました。こうした明治・大正・昭和を代表する近代数奇の三大茶人の想いを引き継ぎ、体験イベントを開催いたします。

イベント概要は下記のとおりです。



白雲洞茶苑「白雲洞」



イメージ

記

1. 「抹茶体験イベント」

- (1) 体験内容 登録有形文化財「白雲洞茶苑」内の白雲洞にて、白雲洞茶苑の歴史をはじめ抹茶の点て方などを学べます。さらに、体験中の写真撮影のサポートや、体験終了後は茶室内を自由に見学することができます。(お菓子付)

※体験後にはアンケートにご回答いただきます

(2) 開催日程

日程	対応言語
11月11日(水)	英語
11月13日(金)	日本語
11月17日(火)	英語
11月18日(水)	日本語

(3) 開催時間 1回目 11:00～11:40

2回目 13:30～14:10

3回目 14:45～15:20

(4) 体験時間 約40分

(5) 体験料 ①3,000円／名(税込)

②8,000円／名(税込)「抹茶ことはじめ(茶碗・茶筌・抹茶セット)」付(通常販売価格5,500円)

(6) 予約方法 ①KKday URL <https://www.kkday.com/product/526385>

②当日受付(空席がある場合白雲洞茶苑前にて受付)

※キャッシュレス決済のみ対応

(7) 予約期間 10月28日(水) 10:00～各体験日前日まで

(8) 場 所 白雲洞茶苑「白雲洞」

(9) 対象人数 1回につき最大5名

※未就学児は付き添いが必要です

(10) その他 ・体験料以外に別途箱根強羅公園入園料が必要です

2. 箱根強羅公園について

(1) 営業時間

3月～11月 9:00～17:00(最終入園時間16:30)

12月～2月 9:30～16:30(最終入園時間16:00)

休業日 年中無休(年3回メンテナンス休園日あり)

(2) 入園料

大人650円(税込)・小学生以下無料

・箱根フリーパス、のんびりきっぷ、大涌谷きっぷをご利用の方は入園無料
(デジタルチケットを含む)

・当日・翌日再入園可

※レシートを窓口でご提示ください

※箱根強羅公園・箱根美術館共通入場券は再入園いただけません

3. お問い合わせ 株式会社小田急箱根 施設事業部

Tel. 0465-32-6827(平日9:00～17:00)

ホームページ <https://www.hakonenavi.jp/gorapark/>

公式Instagram【強羅公園】 @hakone_goura_park

箱根強羅公園（はこねごうらこうえん）

箱根登山電車の終着駅、強羅に大正3年（1914年）に開園された、日本初のフランス式整型庭園です。フランス式整型庭園とは、平坦で広大な敷地に左右対称に幾何学的に噴水池などを配置した特徴がありますが、強羅公園は傾斜面に作られています。当時は強羅エリアの開発にあわせて計画され、別荘の居住者や開園5年後に開通した「箱根登山鉄道」の多くの利用者に親しまれてきました。

現在も昔も変わらない広い空と山々に囲まれた開放的な公園は、2004年に体験工房「箱根クラフトハウス」、後にサンドイッチ料理レストラン「一色堂茶廊」がオープンし、1日を通して様々な体験を楽しめるのが魅力です。

白雲洞茶苑（はくうんどうちゃえん）

箱根強羅公園にひっそりと佇む「白雲洞茶苑」は、白雲洞をはじめ、不染庵、対字斎、寄付など4棟の茶席と、当時は岩風呂として使われていた白鹿湯から成り立つお茶室群です。流儀や作法にとらわれず、自由にお茶席を楽しんでいただける「田舎家の席」として親しまれていました。

2001年には登録有形文化財（建造物）として指定され、明治・大正・昭和に渡り、近代数奇の「三大茶人」と呼ばれた鈍翁、三溪・耳庵に引き継がれ110年以上も大切に保全されています。